

科目コード	51341	授業科目	実践精神看護特論 I Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory I			担当教員	○藤野裕子、大川嶺子 村上満子 谷所敦史（非常勤） 西谷博則（非常勤）	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	精神保健医療福祉の変遷、制度や体制等について、文献を通して様々な視点から学び、現在の精神保健福祉法を人権擁護・倫理的観点から把握するとともに、生活の場におけるメンタルヘルスについて、関係法との関連性を理解する。							
到達目標	1. 諸外国および我が国の精神保健福祉の歴史的背景について批判的視点から記述できる。 2. 精神保健福祉法の現状を理解し、現体制における倫理的問題と看護職の役割を概観できる。 3. 生活の場におけるメンタルヘルスの現状と課題および法制度との関連について記述できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	精神障害者を取り巻く社会状況の変化						藤野裕子	
第2回	社会とメンタルヘルス						〃	
第3回	現代の精神保健：①精神保健とは ②心の健康 ③ストレスなど						〃	
第4回	精神保健医療・看護の変遷 1：諸外国 2：日本 3：沖縄						大川嶺子	
第5回	精神保健福祉の動向 1：法改正と患者の人権擁護						谷所敦史	
第6回	〃	〃	2：障害者基本法と社会参加			(非常勤)		
第7回	〃	〃	3：ソーシャル サポート（社会資源）			〃		
第8回	〃	〃	4：障害者基本法と自立支援法			〃		
第9回	〃	〃	5：心身喪失者等医療観察法と司法精神看護			西谷博則		
第10回	〃	〃	〃			(非常勤)		
第11回	家庭におけるメンタルヘルスの現状と課題：①国民の心の健康づくり ②自殺対策基本法 ③DV予防法等との関係						藤野・村上	
第12回	学校におけるメンタルヘルスの現状と課題：①学校保健安全法と児童生徒の心身の健康 ②発達障害者支援法等との関係						〃	
第13回	職場におけるメンタルヘルスの現状と課題：①職場のメンタルヘルス対策(メンタルチェック) ②THPにおける健康づくり等との関係						〃	
第14回	精神保健福祉分野における法的・倫理的問題と看護職者の役割						〃	
第15回	まとめ						〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	1)「我が国の精神保健福祉」(精神保健福祉研究会 監修) 2)学生および教員が各々分担し、文献・資料を収集し討議する。							
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。							
備考								

科目コード	51342	授業科目	実践精神看護特論Ⅱ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing TheoryⅡ		担当教員	○藤野裕子 大川嶺子・村上満子	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	精神看護に必要な基本的精神看護理論、対人関係論などを学び、対象の精神の健康状態をアセスメントし看護支援を展開するための基本について学ぶ。						
到達目標	1. 精神看護に必要な基本的な概念や理論を活用し、精神の健康状態をアセスメントできる。 2. 対象をアセスメントし、適切な看護過程の展開について記述できる。						
回数	授業内容及び計画						担当者名
第1回 第2回	実践精神看護における精神の健康状態のとらえ方 精神障害の捉え方						藤野裕子
第3回 第4回	人格の発達と精神の健康状態：出生前期～乳児期 ：学童期～思春期						〃
第5回 第6回	〃：成人期 〃：老年期						〃
第7回 第8回	精神の健康状態のアセスメント：精神症状と状態像 ①不安状態・攻撃性を示す患者						村上満子
第9回 第10回	〃②対人関係障害のある患者						〃
第11回 第12回	〃③思考障害のある患者						大川嶺子
第13回 第14回	〃④気分・感情障害のある患者						〃
第15回	まとめ						藤野裕子
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。						
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51343	授業科目	実践精神看護特論Ⅲ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing TheoryⅢ		担当 教員	○藤野裕子 前田浩 (非常勤) 山田 豊 (非常勤) 仲本晴男 (非常勤) 島袋静香 (非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講 義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	精神医療領域で使われる個人および集団を対象とした精神療法の基礎について学び、看護援助としての活用方法を考える。						
到達目標	1. 精神看護の関連技法の概要と特徴について理解する。 2. 各種の治療法の概要と特徴を理解し、看護との関係及び看護への活用を考える。						
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	
第1回	精神看護の関連技法における看護の役割					藤野裕子	
第2回	精神看護と関連技法①：ホリスティックアプローチ リラクゼーション						
第3回	精神看護と関連技法②	精神科薬物療法			前田 浩		
第4回	〃	〃			(非常勤)		
第5回	精神看護と関連技法③	生活療法(社会生活技能訓練)			山田 豊		
第6回	〃	〃			(非常勤)		
第7回	精神看護と関連技法④	認知行動療法			仲本晴男		
第8回	〃	〃			(非常勤)		
第9回	〃	〃			〃		
第10回	〃	〃			〃		
第11回	精神看護と関連技法⑤	家族療法(1)			島袋静香		
第12回	〃	〃			(非常勤)		
第13回	精神看護と関連技法⑥	家族療法(2)			〃		
第14回	〃	〃			〃		
第15回	まとめ					藤野裕子	
テキスト	坂田三允 総編集. (2005). 精神看護エキスパート13 精神看護と関連技法. 中山書店.						
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。						
成績評価の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。						
備 考							

科目 コード	51344	授業 科目	実践精神看護特論Ⅳ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Theory Ⅳ		担当 教員	○藤野裕子	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	精神看護領域における基本的な援助技術についての理論と技術を学ぶ。						
到達目標	1. 精神看護領域における対象との治療的人間関係に関する理論を理解し、実践への応用を考える。 2. 精神看護実践における基本的な援助方法に関する理論を理解し、適切にアセスメントができる。 3. 精神看護実践において理論を活用する際の専門看護師の役割行動を理解する。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	精神看護実践のための対象理解の理論 ①エリクソン発達理論 ②精神分析論, 防衛機制 ③ストレス脆弱性・対処モデル ④ニーズ論 ⑤セルフケア論 ⑥対人関係論 精神科リハビリテーション看護 ストレngths・リカバリー①② 精神看護実践における危機状況と看護アセスメント①② 精神障害者の文化的背景の理解と受療継続への援助①② 精神看護専門職者の役割と多職種との連携 チーム医療における精神専門看護師の役割 まとめ					藤野裕子	
テキスト	Gail W Stuart他編著, 安保寛明, 宮本有紀監訳. (2007). 精神科看護—原理と実践. 医学書院.						
参考文献	1) A OTool他編, 池田明子他訳. ペプロウ看護論 看護実践における対人関係論. 医学書院. 2) Orem DE著, 小野寺杜起訳. オレム看護論, 看護実践における基本概念. 医学書院.						
成績評価 の方法	講義への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51345	授業科目	実践精神看護演習 I Practical Mental Health and Psychiatric Nursing Seminar I		担当教員	○藤野裕子 大川嶺子 渡久山朝裕 村上満子 高江洲義英 (非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				
授業概要	精神看護に必要な基本的精神看護理論、精神療法、対人関係論などについて演習する。 また、文献学習を通して各自の関心のある実践領域におけるセラピーの活用法を考える。						
到達目標	1. 精神看護に必要な精神療法に関する文献学習を通し、実践への活用と評価(効果)について理解する。 2. 精神看護の関連技法の演習をとおり、自分自身の実践課題について多方面から検討できる。						
授業回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1・2回 第3・4回	精神看護に必要な精神療法に関する文献学習： ①集団療法および個人療法 ②家族療法および心理教育					藤野裕子 〃	
第5・6回 第7・8回	精神力動看護，対人関係に関する文献講読 〃					村上満子 〃	
第9・10回 第11・12回	リラクゼーション技法に関する文献講読： ホリスティックアプローチ(呼吸法・漸進的筋弛緩法等)					大川嶺子 〃	
第13・14回 第15・16回	リラクゼーション技法の適用：不安・不眠・痛み 〃					〃 〃	
第17・18回 第19・20回	心理療法（講義・体験学習） 対人関係技法（講義・体験学習）					渡久山朝裕 〃	
第21・22回 第23・24回	自律訓練法（講義・体験学習） 〃					〃 〃	
第25・26回 第27・28回	芸術療法（見学・体験学習） ①絵画療法 ②音楽療法 ③園芸療法 その他					高江洲義英 (非常勤)	
第29・30回	まとめ					藤野裕子	
テキスト	坂田三允 総編集. (2005). 精神看護エキスパート13 精神看護と関連技法. 中山書店.						
参考文献	文献・資料を収集し講義および討議を行う。						
成績評価の方法	演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51346	授業科目	実践精神看護演習Ⅱ Practical Mental Health and Psychiatric Nursing SeminarⅡ		担当 教員	○藤野裕子 大川嶺子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				
授業概要	精神看護領域における基本的な援助技術について演習する。また、事例検討や文献学習を通して自己の実践課題を明確化する。						
到達目標	1. 事例検討を通して、自分の看護実践をふりかえり、アセスメント能力を高める。 2. 対応困難な患者の看護場面の「再構成」を用いて、患者との相互作用を分析する。 3. 関連文献の学習を通して、自己の実践課題を明確化する。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1・2回 第3・4回	臨床で関わった事例についての検討 ① 〃 ②					大川嶺子 〃	
第5・6回 第7・8回	事例のアセスメント セルフケア論 上記事例①について；文献学習により理解を深める。 事例報告書を作成する。					〃 〃	
第9・10回 第11・12回	上記事例②について；文献学習により理解を深める 事例報告書を作成する。					〃 〃	
第13・14回 第15・16回	事例のアセスメント 看護過程の展開と看護診断 〃					藤野裕子 〃	
第17・18回 第19・20回	看護場面の再構成法 ①対応困難場面を再構し、自己洞察を深める。					〃 〃	
第21・22回 第23・24回	②コミュニケーション技法を意識した効果的な援助技術を高める。 〃					〃 〃	
第25・26回 第27・28回 第29・30回	事例検討・文献学習を通して自己の実践課題を明確化し、 レポートを作成する。これらを実習や看護実践に役立てる。 まとめ					〃 〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	宮本真巳. (1995). 看護場面の再構成. 日本看護協会出版会.						
成績評価の方法	演習への参加状況、試験あるいはレポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51347	授業科目	実践精神看護実習 I Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum I		担当 教員	○藤野裕子 大川嶺子・村上満子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間				
授業概要	病院・精神保健施設等の実習施設において、対象者に直接的ケアを実施しながら、ケース間のグループダイナミックス、コンサルテーション、コーディネーションなどについて体験学習する。						
到達目標	1. 実習施設において人権に配慮したモデルとしての看護が実施できる。 2. 対応困難な患者に対する看護過程を展開し、その結果を評価し、事例報告ができる。 3. 看護スタッフの機会教育の場としてケースカンファレンスを活用する。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
実習期間 3週間	平成 年 月 日()～ 月 日() 1) 急性期の患者を2例(対応困難事例を含む)受け持ち、 到達目標に沿って実習する。 実習施設：医療法人卯の会 新垣病院(於：精神科救急病棟)					(実習調整) 看護部長： 塚田由美子 (実習指導) 病棟課長： 那覇 直	
3週間	平成 年 月 日()～ 月 日() 2) 慢性期・回復期にある対象者を2例(対応困難事例を含む) 受け持ち、到達目標に沿って実習し、社会復帰に向けての 地域内の関係機関・施設・家族への支援を行う。 実習施設：県立精和病院 *ケースカンファレンス；指導教員のスーパービジョンをうけながら、 定期的にカンファレンスを実施し、受持ち事例について検討する。 *ケースレポートの作成：対応困難事例についてケースレポートを 作成し、看護実践上の課題について考察する。					(実習調整) 看護部長： 照屋洋子 (実習指導) 看護師長・ 専門看護師： 屋嘉比浩子 藤野裕子 大川嶺子	
**テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	1) 宇佐美しおり, 野末聖香. (2009). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2) 適宜参考文献・資料等を収集・提示し講義検討を行う。						
成績評価 の方法	レポート、実習先での実習態度、実習施設職員からの客観的評価などを総合して評価 を行う。						
備考							

科目 コード	51348	授業 科目	実践精神看護実習Ⅱ Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum II			担当 教員	○藤野裕子 大川嶺子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90時間					
授業概要	精神看護専門看護師の働いている施設で実習し、専門看護師の役割・機能の実際を学ぶ。							
到達目標	1. 組織の中での専門看護師の位置づけ、活用のされ方、看護管理者との関係などを知る。 2. 専門看護師と共にコンサルテーション、コーディネーションなどを体験学習する。 3. 専門看護師の教育研究活動の実際を知り、可能な範囲で活動に参加する。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
実習期間 3週間	<p>専門看護師に同行し、実際の活動を体験学習する。</p> <p>*実習施設(県内)；医療法人天仁会 天久台病院 実習期間；平成 年 (2週間)</p> <p>*実習施設(県外)；医療法人社団碧水会 長谷川病院 実習期間；平成 年 (1週間以上)</p> <p>1) CNSの指導を受けながら実際の活動に参加し、専門看護師に に求められる役割・機能(実践、教育、相談、調整、研究、倫理)に ついて体験学習する。</p> <p>2) 実習Ⅰで習得した知識・技能と照合しながらCNSの役割行動 について考察し、実習レポートを作成する。</p> <p>3) 実習レポートに基づいて担当教員とカンファレンスを行い、 今後の課題を明確化する。</p> <p>専門看護師および指導教員のスーパーバイズを受ける。</p>						(専門看護師) 上原勝子 (専門看護師) 後藤優子 五味麻里 細谷真由 藤野裕子 大川嶺子	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	宇佐美しおり・野末聖香編「精神科スペシャリストに必要な理論と技法」(日看協出版会) 井部俊子他「専門看護師の志向と実践」(医学書院)							
成績評価 の方法	レポート、実習先での実習態度、実習指導者からの客観的評価などを総合して評価する。							
備考								

科目 コード	51349	授業 科目	実践精神看護課題研究 Mental Health and Psychiatric Nursing Problem Study			担当 教員	◎藤野裕子 大川嶺子 村上満子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	精神看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習 I (4単位) > 実習体験を通して課題を明確化する。						藤野裕子 大川嶺子 村上満子	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習 II (2単位) > 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習 I (2単位) > 実習体験を通して課題を明確化する。							

2年次	<4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。	
3年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験* <4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出* 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 可否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※()内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験(口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験(口頭又は筆答による)を行う。	
備考	注) *印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自揭示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。	